

特集

ありがとう。



【写真】ふじみの救急クリニックが所有する救急車の前で、スタッフの集合写真。日々笑顔で患者さんを迎え入れます。

地域の応援の声と支援の輪が 誇りとやりがいにつながる

です」。PCR検査を引き受けた理由をそう話す鹿野院長。「正直、全国でこれだけPCR検査を受けることができないとは思っていませんでした。検査ができず、不安で困っている人の受け皿になろうと思ったんです。『すべては患者さんのために』。鹿野先生の信念のもと、ふじみの救急クリニックは、県内県外を問わず、希望者にPCR検査を実施してきました。

教育・訓練・感染防御で正しく恐れる

しかし、引き受けるにあたって、スタッフからの反対や恐怖心はなかったのでしょうか。「最初はみんな恐怖心があり、中途半端な状態で受け入れるのは心配という声も上がりました。そこで、コロナの教育、訓練を行い、感染防御も整備。正しく恐れるように気持ち切り替え、しっかりと対応すれば恐れることはない」と伝えていきました。



↑ 掲示板に貼られた地域の皆さんからの手紙。応援メッセージがスタッフの士気を高めます。

また、「徐々に地域の人の応援や医師会、行政からの支援の輪が広がり、そういう声もスタッフがの耳に入っていくうちに自分たちの仕事に誇りとやりがいを持って、前向きに取り組むことにつながりました」と鹿野院長。

その成果もあって、感染ピーク後の5月に全スタッフが行った抗体検査では、陽性者は0。今までやってきた感染対策に手ごたえを感じながらも、「まだコロナが収まった訳ではないので、気を緩めずに取り組んでいきます」



ふじみの救急クリニック 院長
鹿野 晃 先生 (47)

富山県高岡市出身。日本救急医学会救急科専門医。日本DMAT隊員。3児の父であり、趣味は家族とのショッピング。

※ DMAT…災害派遣医療チーム

24時間365日、何でも診れる「町の保健室」

ふじみの救急クリニックの決意

三芳町北永井にある「ふじみの救急クリニック」。2月中旬からPCR検査を実施し、検査ができない人の受け皿になってきました。地域救急医療に対する思いを、院長の鹿野晃先生に伺いました。



市一町管内で年間約1万件ある救急搬送。そのうち3割は、地域で受けきれず管外に搬送されています。地域で軽症から重症まで何でも診れる24時間365日の救急クリニックがあれば、地域住民の助けになると思い、開業を決意しました——。

そう語るのは、北永井にある「ふじみの救急クリニック」院長の鹿野晃先生(47)。元々あった脳神経外科に救急科を加えて名称を変更し、2018年11月、新たなスタートを切りました。

PCR検査の受け入れ

ふじみの救急クリニックは保健所の要請を受け、2月中旬からPCR検査を始めます。「うちは救急クリニックなので、何でも診ます。例年だとインフルエンザが多いですが、今年はそれがコロナだったというだけ

と今後をしっかりと見据えます。町の保健室のよう」

PCR検査の実施にあたり、鹿野先生が一番感謝したいのは、地域住民に対してだと言います。「近隣の皆さんが不安になることも多かったと思いますが、ご理解いただき、温かく見守ってくれたことに感謝しています。今年11月にリニューアルを予定し、さらに医療体制が充実するふじみの救急クリニック。「大病院と違って敷居が低いので、町の保健室のように来てもらえると嬉しいです。スタッフ一同笑顔でお待ちしています。」

ふじみの救急クリニックの全スタッフに感謝

勇気をもって鹿野先生がこの地域のPCR検査を一手に引き受けてくれたおかげで、三芳町は新型コロナウイルスの感染を最小限に留めることができました。恐怖と戦いながらも働いてくれたふじみの救急クリニックの全スタッフには、感謝しかありません。今後も新型コロナウイルスの収束に向けて三芳医会が団結し、各病院ができることを全力でサポートしていきます。皆さんも引き続き感染予防をお願いします。



三芳医会会長
すじの眼科クリニック院長
筋野 哲也 先生 (59)

ふじみの救急クリニック

DATE

住所：三芳町北永井 997-5
電話：049-274-7666
FAX：049-274-7667

ふじみの救急クリニック
ホームページ

※ 2020年11月リニューアル予定。

